



火災から

家族と住まいを守るには…

火災発生の危険をチェックし、防火対策を行きましょう。

主な出火原因



こんろ

こんろからの出火が火災原因として毎年上位にあげられます。天ぷら油からの出火も多く発生しています。調理中は、こんろから目を離さないようにしましょう。

防火チェックポイント!

- こんろのまわりに燃えやすいものを置かない。
- こんろ使用中は、その場を離れない。離れるときは必ず火を消す。
- ひび割れたガスホースを使用しない。
- 換気扇やグリルをいつもきれいにしておく。

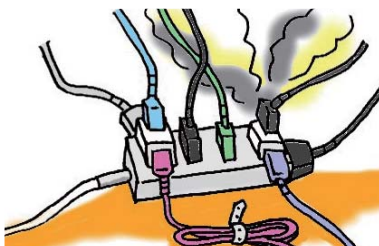


放火・放火の疑い

放火による火災は、毎年全国的に多数発生しています。「放火されない」「放火させない」環境をつくりましょう。

防火チェックポイント!

- 家のまわりに燃えやすいものを置かない。
- 物置、空室、車庫などに鍵をかける。
- ごみは、収集日時などルールを守って出す。



電気関係

身近な電気器具等も使用方法を誤ったり、日頃の点検・清掃を怠ると火災を招きます。ご家庭のコンセントやテーブルタップの状況を確認してみましょう。

防火チェックポイント!

- たこ足配線をしない。許容量以上の電気器具をつなげない。
- 電気コードの上に重い物を置かない、束ねたり、ねじれたまま使用しない。
- コンセントやプラグにほこりをためない。



たばこ

たばこによる火災は、その多くが消し忘れなどの不注意から発生しています。吸殻の火が完全に消えていることを確認しましょう。

防火チェックポイント!

- 火のついた、たばこを置いたままにしない。
- 吸殻は、水に浸して完全に消火する。
- 寝たばこは、絶対にしない。
- ローソク、灯明、線香に火をつけたまま離れない。



ストーブ

寒い季節に欠かせないストーブも使用上の注意を怠ることにより火災の原因となります。便利な道具ですので正しく使用して快適にすごしましょう。

防火チェックポイント!

- ストーブのまわりに燃えやすいものを置かない。近くで洗濯物を干さない。
- ストーブを持ち運ぶときや給油するときは必ず火を消す。
- ストーブをつけたまま寝ない。



火遊び・たき火

火遊びやたき火も出火原因のひとつです。子どもの火遊びによる火災は、発見が遅れることにより火災が大きくなることがあります。

防火チェックポイント!

- 子どもの手の届くところにマッチやライターを置かない。
- 風の強い日は、たき火をしない。
- たき火の後は、水をかける。



「まさか」の火事。



住宅用火災警報器で助かる命があります!

住宅用火災警報器で大切な命を守りましょう。

寝ている間に発生した火災に気付かずに、逃げ遅れてしまう事例が多く発生しています。こうした逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

住宅用火災警報器は、火災により発生する煙を感知し、音や音声により警報を発して火災の発生を知らせてくれるものであり、住宅火災からご家族を守る大切な役割を果たします。

原則、煙式の警報器を寝室と階段に設置することが必要となります。

定期的に作動確認し、警報音を聞きましょう。

住宅用火災警報器を設置した後も、電池切れで万が一の時に作動しなかったということがないように、定期的に本体のボタンを押す、またはひもを引くなどして作動確認をしてください。



住宅防火のちを守る 7つのポイント

3つの習慣

★ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。



★ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。



★寝たばこは、絶対やめる。



4つの対策

★お年寄りや身体の不自由な人を守るために、**隣近所の協力体制**をつくる。



★火災を小さいうちに消すために、**住宅用消火器**等を設置する。



★寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、**防炎品**を使用する。



★逃げ遅れを防ぐために、**住宅用火災警報器**を設置する。

